

フランスにおける富山県の伝統工芸の販路開拓の取組みについて

平成30年6月
富山県商工労働部経営支援課

富山県では、伝統工芸品の海外販路開拓を支援するため、平成26年度からニューヨーク、イタリア・ミラノ等において伝統工芸品のPR展示会を行ってまいりました。

今回、機会を頂きましたので、本年4月にフランス・パリで初めて行いましたとやま伝統工芸PR展示会及び「地方の魅力発信プロジェクト」を活用させて頂き実施したとやま伝統工芸PR交流会についてご紹介させていただきます。

1 とやま伝統工芸PR展示会

平成30年4月15日から19日の5日間、パリで日本の伝統工芸品などを取扱うディスカバー・ジャパン・パリにおいて、とやま伝統工芸PR展示会を開催いたしました。

高岡銅器や高岡漆器のほか、平成29年11月に国の伝統的工芸品に指定された菅笠、フランス人デザイナーとのコラボレーションにより誕生した製品に加え、能作の錫製品など、22社111点を展示いたしました。来場したフランス人からは、「洗練された作品だ」、「少し遠いが富山に行きたい」、「なぜ販売しないのか。ぜひ買いたい」といったご意見を頂きました。

また、展示とあわせて、おりん職人の島谷好徳氏、和紙職人の川原隆邦氏による実演、ワークショップも実施し、来場者から「素晴らしいワークショップだった」などのご意見を頂き、大変好評でした。

今回の展示会を開催したことにより、デザインの世界的な中心地であり、工芸についても関心が高く、目利きの方やデザイナーなど幅広い人的ネットワークを有するパリの魅力を大いに活かしていけると感触を得ました。また、直接展示会に来てくださる方だけでなく、富山県の職人の優れた技術を直かに見ていただいた方々のネットワークを通じて多方面に評判が広がっていくことが期待されます。



展示会場



すずがみの体験



和紙での風車の製作体験



来場者と職人による記念撮影

2 とやま伝統工芸PR交流会

平成30年4月17日、在仏日本国大使館と共催で、パリの在仏日本大使公邸において、とやま伝統工芸PR交流会を開催しました。

当日は、美術館・メディア・観光関係者、デザイナーなど106名の出席のもと、最初に木寺昌人大使から、富山県が豊かで美しい自然を有し、おいしい水とおいしい米による良質な日本酒も生産されていること、また今年はジャポニスム2018の開催年であり、日本文化に触れる機会が増えることから本日は富山県の様々な魅力を発見して欲しい旨の挨拶をいただきました。

木寺大使の挨拶に続き、石井隆一富山県知事が挨拶し、日仏友好協定締結160周年の記念すべき年に在仏日本大使公邸で伝統工芸品のPRを出来ることは光栄であると申しあげるとともに、1900年のパリ万博で事務局の事務官長を務めた林忠正（高岡市出身）が思い出されること、交流会の前にパリ国際大学都市日本館やマイヨール美術館で藤田嗣治の没後50周年特別展を拝見したが、昨年全面開館した富山県美術館に藤田の代表作の一つである二人の裸婦が所蔵されたこと等とあわせて、富山県とパリとの深いつながりを改めて感じたことなどを紹介しました。

その後、島谷氏と川原氏によるデモンストレーションが行われました。島谷氏はおりんの調音及びすずかみの実演を、川原氏は蛭谷和紙の特徴の紹介や実物の展示などを行ったところ、多くの来場者が興味深そうに見入り、特にフランス人の女性の方々が男性以上に熱心に展示物に触れながら質問しているのが印象的でした。

会場内では、富山県の伝統工芸品の展示に加え、地酒の試飲も行われ、参加者からは大変好評で、「富山県に近々訪問してみたい」、「富山県を雑誌で紹介したい」といった声も聞かれました。



木寺大使挨拶



石井知事挨拶



島谷氏デモンストレーション



川原氏デモンストレーション



会場内の様子1



会場内の様子2

3 終わりに

今回、在仏日本大使公邸でのとやま伝統工芸PR交流会が成功裡に終わりましたのは、ひとえに在仏日本国大使館をはじめ、関係者の皆様の支援のおかげによるものです。木寺大使をはじめ大使館の皆様を重ねて厚くお礼申し上げます。

最後に、今年は日仏友好協定締結160周年を記念してジャポニスム2018の各種イベントがフランス国内で年間を通じて開催されることになっておりますが、来年2月に富山県も伝統工芸品の公式企画に出展することとしております。今後も富山県の魅力ある伝統工芸品が世界で認知されるよう努めてまいります。